

労研復刊 26 号 2010 年 8 月発行

労働運動研究 8 月号 復刊 26 号 通巻 410 号

焦点 菅政権の当面の急務は、消費税ではなく普天間対策だ！

特集 普天間、消費税—難問山積の菅新政権の暑い夏

鳩山首相の退任と菅民主党政権の行方 政治アナリスト 大竹政一

社民党が国民の支持を得るために何が必要か 東京 松本弘也

国鉄闘争終結に当って—23 年間にわたる闘争の経過と幾つかのエピソード—

国鉄作家集団 小田美智男

口蹄疫流行について思うこと—冷静で賢明な対処を望む—

バイオハザード研究会顧問 元愛知大学教授(生物学) 本庄重男

日韓併合 100 周年を機会に問い直す

—未決の植民地・戦争責任問題— 山口大学人文学部教授 瀬瀬 (こうけつ) 厚

「北大の自由・自治・反戦・平和の歴史を考える」

—イールズ闘争 60 周年・60 年安保闘争 50 周年を迎えて—

北大 5・16 集会世話人会事務局 手島繁一

[資料] [北大 5・16 集会からのアピール]

の戦後史 (3) 朝鮮戦争前後の激しい弾圧下で

—共に闘った忘れえぬ人々—

京都 米澤鐵志

『中国便り』(安徽編) 6.世界の中の中国 7.中国経済の歩みと科学的発展観

安徽省 日本語教員 大畑龍次

前途多難なキャメロン保守・自民連立政権

—波乱含みの欧州経済の中での船出—

労働運動研究所 柴山健太郎

欧州経済危機に揺れる左翼オールタナティブの可能性

—ノルトライン・ウェストフアーレン州議選の惨敗に直撃されたメルケル政権—

第 2 特集 新しい道を模索する欧州左翼

ドイツ左翼のシンクタンク [連帯的近代のための機構] 設立のための呼びかけ (全文)

訳・解説 工学院大学 小野 一

特集 誌上論争「世界的な危機に直面した左翼の役割」(「ヌーベル・オブセルバトール」)

翻訳・解説 労働運動研究所 福田玲三

徹底した改良主義のために 『ヌーベル・オブセルバトール』 主筆 ジャン・ダニエル

左翼とともにもっと遠く

元首相 ミッシェル・ロカール

第二左翼の中で生きているものと死んだもの

『ヌーベル・オブセルバトール』 コラムニスト ジャック・ジュイヤール

[書評]

小川重明／近藤宏子著「多喜二と百合子」

柴崎 律／ビクター・セバスチャン著『東欧革命 1989 ソ連帝国の崩壊』

柴山恵美子／塩沢美代子著『続・語り継ぎたいこと—日本・アジアの片隅から』

（ドメス出版 2010 年 2 月刊、2000 円＋税）

〔読者便り〕

草野好文「日本左翼の問題性」

編集後記